

2025.3.31

「海・空・子どもプロジェクト」

2024 年度 日本財団 海と日本プロジェクト

【 資料編 】

事業名：病弱児童・生徒の海洋教育協働探究カリキュラ

ム開発プロジェクト（海と日本 2024）

事業期間：2024.4.1 - 2025.3.31

団体名：海・空・子どもプロジェクト実行委員会



海・空・子ども プロジェクト 研究会

2025

1月25日(土)

13:30～16:30

主催：「海・空・子どもプロジェクト」実行委員会

参加申込みこちら▶

2025年1月18日(土)締切

※応募多数の場合、締め切らせていただくことがあります
申込URL:<https://forms.gle/So9F1k2698G99obV6>



会場 中央区立産業会館 2階展示室 ※会場が変更になりました

アクセス 東京都中央区東日本橋2-22-4

都営浅草線東日本橋駅 徒歩4分/都営新宿線馬喰横山駅 徒歩5分

対象 全国の教員・教育関係者・教育に関心のある方
対面30名・オンラインzoom 20名程度

申込 上記QRコードまたはURLよりお申込みください



タイムテーブル

13:30	開会挨拶 「海・空・子どもプロジェクト」実行委員会 代表 福島 昌子 (福井大学総合教職開発本部、連合教職大学院 特命教授)
13:40	実践報告「海・空・子どもプロジェクト」実行委員会
14:40	休憩
14:50	ラウンドテーブル
16:15	全体シェア
16:30	終了



「海・空・子どもプロジェクト」では、健康課題・特別な支援を必要とする児童・生徒に対し、「総合的な学習の時間」での海洋教育を主軸にした協働探究カリキュラム開発を行っています。

今年度は、肢体不自由の特別な支援を必要とする埼玉の中学生の「総合的な学習の時間」での実践等を報告します。また、本研究会ではラウンドテーブルを実施し、対話をとおして、教育関係者だけではなく、さまざまな職種の人が「個別最適な学び」について視野を広げるとともに、学校や子どもと連携することで社会に拓かれた教育について探究していきます。



お問い合わせ

海・空・子どもプロジェクト実行委員会
担当：千葉
メールアドレス：deal.tokyo.2021@gmail.com

<助成>

日本財団 海と日本プロジェクト



研究会まとめ

参加人数 28名（内オンサイト 19名 オンライン 9名）

■アンケート結果

Ⅰ 実践報告について

自身が知らなかった事前準備の様子や、仕掛けた目的、ねらい、想いや、生徒と教諭の関わりや変容、具体的なやり取りのお話が伺えて素晴らしくて唸りました。

理論と実践の往還が大切だと改めて感じる。体験を学びに転化していくための設計が必要と思った。体験あって学びなしにならないような工夫をしていかななくてはならないと改めて考えた。

宿舎で特別支援教育の子ども達が社会に入りにくい現状にあることと、その子ども達を囲む大人も、共に協同探究し、「ひと・こと・もの」を学んでいる実践報告を聞けて大変ためになりました。そこにある教師の思いも語られながら、子どもと講師の距離、先生とプロジェクトに関わる大人たちの距離が近くなっていく様子が素敵でした。新たな挑戦から社会を変えていくことにつながる実践の報告を、ありがとうございました。

航空会社、海上保安庁などの外部資源との連携などを始め、勤務校での探究活動の参考になるものが多数ありとても勉強になりました。子供たちにとって、今は直接触れられないいくつかの体験を、この年代でさせてあげることとはとても大切なことだと思いました。いつか実現できることとして、今でもできることを求める活動も、探究活動の醍醐味だと感じました。

多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない学びの環境を整備するという主旨が素晴らしいと思います。本物に触れ、五感で学ぶ実体験をすることで得る学びがいかに大きいかを感じることができる実践報告でした。特別支援学校の子どもたちが体験してきたことが少ないとのことでしたが、現在は何の子も情報だけで知ったつもりの子が多いので、体験へ導く学習は大変参考になりました。

生徒の変容についてもお話いただき、大変良かったと思います。

子ども達が、探究活動を通して自分の思いに目を向けることができるのだと感じました

探究的な学びをとおして生徒だけでなく先生たちも多くのことを学ぶことができることを感じました。

生徒と同じように先生たちがコースを作り発表したことで、先生たちのなかでも自分ごととして捉えることができたのではないかと感じました。

特別支援の子どもたちが、誰かのために考えてコースを作るという宿題は、いつもとは違った視点を与えられた取り組み。その探究で、子どもたちも心の成長があったと話された先生の話が、印象に残っています。

2 ラウンドテーブルについて

「本気」「本物」への強い想いと、現場での「仕掛け」や「変容」を生で伺って大きな学びとなりました。

対話を通して、自分の考えを掘り下げることができた。知的探究心を熏られた。

既存の枠を飛び出し学びは面白いし、子供達の学びを最大限にしようと思った。大人にとっての学びになると思う。

住んでいる場所も、性別も、世代も、立場も、つながりがないようで何を話したらいいんだと思っけていても、不思議と同じ思いのもと話が広がっていくので、改めてラウンドテーブルってすごいなと関心させられました。なんとなく自分の話を進める中で、自分の思いに気がつき、相手の話を聞きながら新たな思考の種をいただけて、明日からまた自分の場所で頑張ろうと力をもらうことが出来ました。

コーディネーターさんの進行が巧みで、話過ぎてしまったかなと思うくらい、とても有意義な時間を過ごさせていただきました。幼稚園や大学での子供たちの状況を詳しく知ることができ、高校での教育活動を見つめ直すことができました。

多様な職種の方との分かち合いでしたが、その分だけ自分の考える幅が広がる体験となります。どの先生方も、その先の子どもの姿が浮かぶような語りをしてくださり、ワクワクしながら学び入りました。

様々な職種の方々からの異なる切り口でのお話が大変参考になりました。

ラウンドテーブルに参加し、実際にプロジェクトに関わった方々の思いや意図を知ることができ、何より私自身が意識を変えることの必要性を感じました

他の方の日頃の実践を聞かせていただき、自分でも取り組んでみようと思いました。

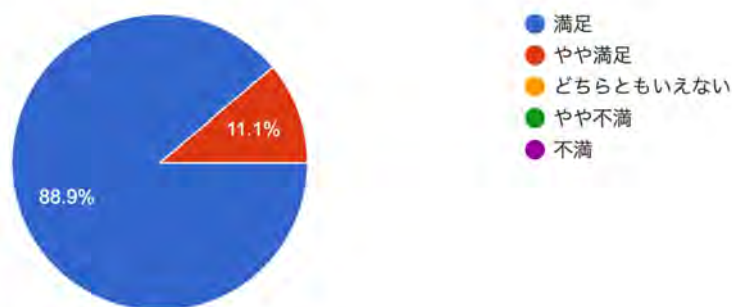
子どもたちは大人になる、将来を見据えて、子ども扱いせず大人として扱う。大人が大人になってない!?

教師が探究を楽しむということ、子どもの成長を待つということ、など、全体シェアでも、同じような内容がでたので、改めて、大切だと感じました。

3 研究会全体について

(1) 研究会全体の満足度について

9件の回答



【満足度を選んだ理由】

一度の参加で全てを理解する事は難しかったのですが、繰り返し目的やねらいを伺い、自身の感じた思いを言葉にする事で気付きや学びが深まりました。

自分の考えが深められたから

多様な子ども達が誰ひとりとして取りこぼされないことが実施可能な環境整備に向けて、〈海洋教育〉を軸に特別支援学校での新たな挑戦の取り組み内容がとても興味深くおもしろいものでした。

ズームでの参加だったのですが、不具合にもすぐ対応いただきありがとうございました。

会場の雰囲気が良く、皆さんの意欲や姿勢がとても良い刺激になりました。

すばらしい実践報告と分かち合っていました。集う先生方の熱意が高く、すばらしい時間となりました。

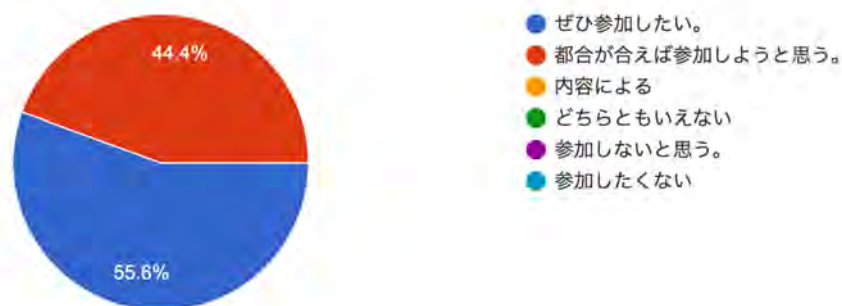
参加者がより多いと一層良かったと思います。

今の自分に必要な内容だった為

RTで、色々な立場の方と話ができ、視野が広がった。

(8) 次回、このような研究会が開催された場合、参加されようと思いますか。

9件の回答



特別支援学校、肢体不自由の生徒における「総合的な学習の時間」の 海洋教育、協働探究学習の実践

○福島昌子(福井大学総合教職開発本部)、鈴木亜夕帆(千葉県立保健医療大学栄養学科)、
加藤悟(福井大学連合教職大学院)、大井和彦(信州大学)、
千葉美奈子(東京学芸大学附属高等学校)、平沢安正(東京都渋谷区教育委員会)、
竹田昌司(埼玉県立越谷特別支援学校)、小林由美子(埼玉県立越谷特別支援学校)

キーワード：総合的な学習の時間、協働探究、海洋教育

【目的】

中央教育審議会の答申（R3.1）「令和の日本型学校教育」では、新しい時代を見据えた学校教育として、多様な子供たちを誰一人取り残すことのない「個別最適な学び」の実現、質の高い教育活動の授業・教育環境整備が求められた。しかし、肢体不自由により行動制限のある子どもたちにおいては、多様性、協働的な学びの環境が乏しく、子どもの主体的、対話的で深い学びの教育活動を具現化することは困難といえる。そこで埼玉県立特別支援学校（中等部）の「総合的な学習の時間」に多職種の大人がかかわり、海洋教育を主軸に協働探究プロジェクトを考案した。そのカリキュラムを通して、特別な支援を必要とする肢体不自由の生徒の豊かな成長、社会性、コミュニティーと社会化を培うことをねらいとして、持続可能な協働探究学習を展開することを目的とした。

【研究方法】

1. 対象

埼玉県立越谷特別支援学校、中学校 1～3 年生 13 名

「海・空・子どもプロジェクト」でサポートしている特別支援学校（中等部）において、「総合的な学習の時間」を活用して肢体不自由の中学 1～3 年生 13 名に、海に触れることがない子どもたちだからこそ海を介した海洋教育協働探究学習を実施した。

2. 実施方法

「総合的な学習の時間」の授業内で、対面、Zoom オンラインを活用し、沖縄県の離島である宮古島とリアルタイムで繋がり授業を実施した。（※本プロジェクトは日本財団の助成にて実施）

3. 内容・時期

2024 年 4 月～12 月、17 回（1 回 50 分×2 時間連続授業）を 5, 6 時限目に実施した。
但し、6 限は帰りの支度等のため通常 50 分授業のところ、30 分で実施している。

- ① 沖縄県離島の宮古島の文化・歴史・生活、バリアフリーについて専門家から学ぶ
- ② 海の中のバリアフリー「障がい者ダイビング」について知る
- ③ 第十一管区海上保安本部宮古島海上保安部の協力のもと、海の保全について海上の巡視船よりライブ学習の実施
- ④ Sky マーク株式会社による宮古島に行く準備、空のバリアフリーについて考える
- ⑤ 生徒が「バリアフリーを考えた宮古島を巡るコース」を考案
- ⑥ 生徒が考案したコースをプロジェクトメンバー（教員）が宮古島を巡る
- ⑦ 沖縄県宮古島市立平良中学校2年生と Zoom オンライン授業発表の交流会を食文化交流を含め実施
- ⑧ 文化祭に海プロジェクト学習の発表
- ⑨ 児童へのアンケートおよびインタビュー調査の実施

【結果および考察】

特別支援学校の教師の役割として、①子どもが自分の力で、できることを増やすこと（自立解決）、②子どもが困ったときに「援けて」といえる力をつけること（他力解決）、③子どもが自分の生きる世界の人たちに働きかけること（社会改革の力）の3つの力を養うことにある。その3つの力を養うためには、教師は子どもにかかわるだけでなく、子どもと子どもが生きる世界の人たちとつなぐ経験を学校教育で多く取り入れることにある。これは特別支援の子どもたちに限ったことではない。そこで、本研究では「総合的な学習の時間」に、特別支援の子どもたちの想像の世界を外に向け、子どもが生きる社会にダイレクトにつなげるために海洋教育を主軸に上記①～⑧の活動を行い、その授業方法を協働探究を中心としたプロジェクト学習（PBL）を実施した。PBLは共通のゴールを持たないため、個々の活動レベルの異なった肢体不自由な子どもにとって効果的な学習活動といえる。

授業では、自分たちが暮らす地域と異なった思想や文化をもつ宮古島を調べることから始め、外の世界の人たちとオンラインで繋がり新しい気づきを得られるようデザインした。そして、自立解決のために、自分のための「バリアフリーを考えた宮古島を巡るコース」を作成し、その後に他力解決力、社会改革力を養うために、協働で他者のために「同コース」を3人の協働で考案した。その際、各班の活動レベル、学年、性別をクロスさせたことで、異質な他者を生かす学びや異質な他者によって生かされることの喜びを得られたといえた。また、子どもたちの授業内の対話やコースを考えるワークシートから、子どもたちの思考変容を見ることができた。したがって、肢体不自由な子どもたちにとって、想像の外にある海を介した協働探究から得られる学びは、学習者相互の主体性と協働性を育む学びといえた。

***本研究に関して開示すべき利益相反状態は存在しない**

キーワード 総合的な学習の時間、食育、食に関する指導

総合的な学習の時間の学習目標をサポートする食育の実践

○鈴木亜夕帆¹、福島昌子²、加藤悟²、内村佐保莉³、堀井優⁴、
竹村結香⁵、前川尚代⁶

1 千葉県立保健医療大学健康科学部栄養学科

2 福井大学総合教職開発本部、大学院教職開発研究科

3 東京都世田谷区立祖師谷中学校

4 立教女学院中学校・高等学校

5 埼玉県立越谷特別支援学校中学部

6 沖縄県宮古島市立平良中学校

本研究に関して開示すべき利益相反状態は存在しない

目的

食育基本法は、2005 年に食育を包括的にまた計画的に推進するために制定された法である。この中で食育は、生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものであり、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てることと定義されている。

学校における食育の推進のために、平成 19 年(2007)3月に文部科学省から「食に関する指導の手引」が公表されており、平成 20 年(2008)3月告示の学習指導要領総則には「学校における食育の推進」が位置付けられている。

「食に関する指導の手引」では学校における食育の視点が6項目あげられており、栄養のバランスや食事の健康的な食べ方だけでなく、「食事の重要性、食事の喜び、楽しさを理解すること」、「食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を身に付けること」、「各地域の産物、食文化や食にかかわる歴史等を理解し、尊重する心をもつこと」などが含まれている。これは、生きる上（おとなになるため）での知識を「食」を通して教育することとも言える。このような教育は、給食の時間や単発の特別活動の時間の授業だけでなく、学校教育全体の様々な教育の場面で行う必要がある。また、栄養教諭だけで生きる上での知識を伝えることは難しい。そこで、総合的な学習の時間の中で、食育の視点を踏まえながら、学習目標をサポートするために食を通してアプローチを実践した。

方法

1. 対象

「海・空・子どもプロジェクト」でサポートしている特別支援学校（中学部）における総合的な学習の時間（「海・空・子どもプロジェクト」：支援が必要ある子どもたちに、海について学び、個人の豊かな成長、社会性、コミュニティと社会化を培うことをねらいとして、総合的な学習の時間に海洋教育協働探究学習を展開している）

総合的な学習の時間学習目標は、「宮古島のバリアフリーコースを企画する」：海洋教育をととして社会を学び、海を知り触れる。中学校1～3年生 12名のクラスで実施した。

2. 食育に関する実施時期

①宮古島の味を感じよう(2024年9月)

②宮古島市中学校との授業発表交流会(2024年11月)

結果および考察

1. 学習目標の共有及び準備

授業が始まる 4 月以降数回にわたり、「海・空・子どもプロジェクト」実行委員会において、授業目標、学校の特徴、生徒の様子について共有された。食がかかわる部分だけでなく、学習全体の目標や流れについて知ることで、専門職として食育でのかかわり方について検討しやすくなった。

また、食育を実施しない授業日に実際の授業に参加し、生徒の様子について観察した。授業の生徒の様子を観察し、生徒の学習意欲、教室の様子、教員のかかわり方を知ることで、どのような知識をそのように提供すると良いかについて等、生徒の実態にあわせた食育を検討することができた。

2. 宮古島の味を感じよう(2024 年 9 月)

「(生徒たち一人一人が考えた)宮古島バリアフリースターの発表会」で、生徒たちの多くが実際に体験したことのない宮古島を感じるためのプログラムの一部として、食の面から「宮古島(周辺)の味を感じよう」という黒糖 2 種と上白糖の比較の試食(図)を実施した。

単に、めずらしいものまたは今まで知らなかった味を体験するのではなく、「宮古島を感じて」「味わう」ための方法として、なぜ黒糖なのかに関してスライド数枚の画像で説明した後、目と鼻と舌で味わう方法、味の感じ方の表現方法について伝えた。

生徒からは、食材について「(色が)きれい」という発言がみられ、どの砂糖(上白糖、黒糖 2 種)が好きかという問いかけに対して各自の好みを生徒それぞれが挙手して表現することができた。

3. 宮古島市中学校との授業発表交流会(2024 年 11 月)

宮古島市の中学校の生徒との学習発表交流会において、おやつの交流を実施した。

おやつの交流において、事前に各学校の担当教員及びプロジェクトメンバーと、おやつの時間における食育の視点を共有することで、授業にかかわる教員全体で、「食育」としての意義のあるおやつを楽しむ時間になるように準備を行うことができた。

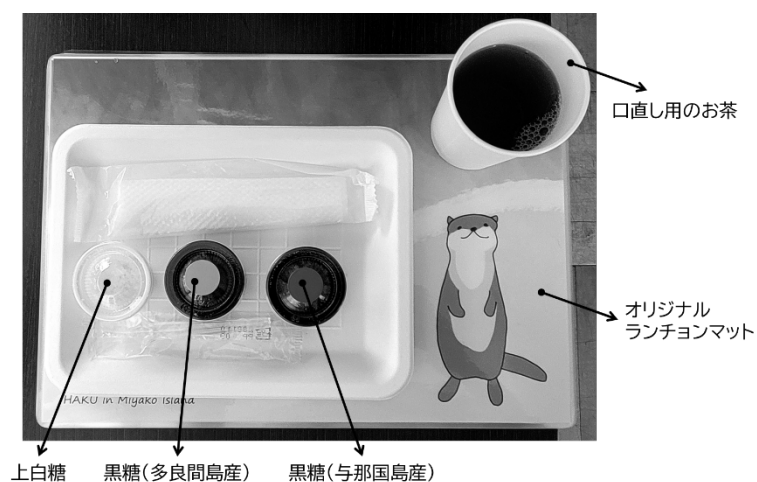


図 「宮古島の味を感じよう」試食セット

特別な支援を必要とする生徒の 海洋教育協働探究の個別最適な学びの実践 —「総合的な学習の時間」のカリキュラム開発—

海・空・子どもプロジェクトEC

加藤 悟（ZEN大学） 鈴木 亜夕帆（千葉県立保健医療大学）、
千葉 美奈子（東京学芸大学附属高等学校） 大井 和彦（信州大学）
平沢 安正（福井大学連合教職大学院） 堀井 優（立教女学院中学校・高等学校）
内村 佐保莉（世田谷区立上祖師谷中学校）
細川 大瑛（慶應義塾大学 日本学術振興会 特別研究員PD）
福島 昌子（福井大学総合教職開発本部、連合教職大学院）



助成 日本財団 海と日本プロジェクト

はじめに

中央教育審議会の答申（R3.1）「令和の日本型学校教育」では、新しい時代を見据えた学校教育の姿として、多様な子供たちを誰一人取り残すことのない個別最適な学びの実現、その学びを支える質の高い教育活動を実施可能とする環境整備が求められている。行動に関して特別な支援を必要とする子どもたちの学びを個別最適に保障するために、あらゆる探究と結び付けることができる海洋教育を基に、学校の授業の題材・教材に位置付けて、海洋教育をととして社会性を培い持続可能な協働探究学習を展開することを目的としたカリキュラム開発を行なった。

目的

行動に関して特別な支援を必要とする生徒に海洋教育をととして、生徒が「バリアフリーを目指した宮古島を巡る探究コース」づくりを行うことで、自己の想像の扉を開き、個人の豊かな成長、社会性などを培う。

対象生徒及び実施期間

埼玉県立越谷特別支援学校中学部（1～3年生 12名）

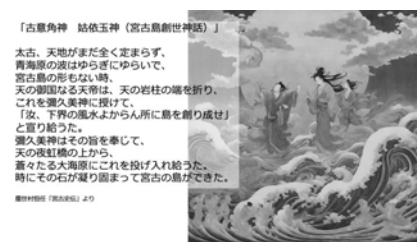
2024年5月から2025年3月まで

実施した授業や研修等

	日程	活動	活動内容
1	6月10日(月)	宮古島を知ろうⅠ	宮古島の社会（文化、歴史、思想、生活、習慣など）について（沖縄こどもみらい創造支援機構理事長 新城宗史氏）
2	6月17日(月)	宮古島を知ろうⅡ	宮古島のバリアフリーについて ①島で働くという事、宿泊施設のバリアフリー（ホテルローカス宮古島 マネージャー 山本直志氏） ②島内のバリアフリー（沖縄こどもみらい創造支援機構理事長 新城宗史氏）
3	6月24日(月)	宮古島を知ろうⅢ	宮古島の海の安全・保全について（海上保安庁第十一管区海上保安部宮古島海上保安部）
4	6月27日(木)	宮古島を知ろうⅣ	海の中の生き物、バリアフリーについて（「DIVING SHOP 海猿」代表 鹿島将氏）
5	7月1日(月)	個人でのコース作り	「バリアフリーを目指した宮古島を巡るコースを考える」（福井大学連合教職大学院東京サテライト 副所長 福島昌子氏） コース作りの考え方、ワークシートの作り方等 宮古島のバリアフリーコースを考え提案する。
6	7月8日(月)	宮古島に行く準備をしよう！	空のバリアフリーについて（スカイマーク株式会社 空港管理部旅客サポート課 旅客訓練グループ 浅香恵子氏） 飛行機の乗り方、バリアフリーについて
7	夏休み	ワークシートの作成（課題）	夏休みの宿題として、ワークシートをまとめ、「バリアフリーを目指した宮古島を巡るコース」を考える。
8	9月3日(火)	コース発表	夏休みの課題である「バリアフリーを目指した宮古島を巡るコース」の発表
9	9月9日(月)	グループでのコース作り	個々人で考えたシートをもとに、グループで1つのバリアフリーコース 案を考える。(グループは3人一組)
10	10月18日（金）	海の安全・保全について	第十一管区海上保安本部宮古島海上保安部の船上からライブ授業（第十一管区海上保安本部 宮古島海上保安部 管理課 時田氏）
11	10月19日（土） 20日（日）	実行委員などによる現地訪問	生徒たちが考えた宮古島コースを生徒から預かったぬいぐるみとともに巡る
12	11月19日（火）	交流・発表会	宮古島の同世代の人たちと学びの成果発表および交流会（宮古島市立平良中学校2年生）
13	11月21日（木）	発表会	文化祭での発表
14	12月17日（火）	交流・発表会	宮古島の同世代の人たちと学びの成果発表および交流会（沖縄県立宮古特別支援学校中学部）

授業の実際

宮古島を知ろうⅠ～Ⅳ
宮古島に行く準備をしよう



①「自分を含めた誰かのため」に個人でコースをつくる
②学年を超えたグループで「誰かのため」にコースをつくる



おえたコースにストーリー印商品はいりてすね！

そのストーリー書きたののストーリーカードにのびるす。

最初の4枚 その後は自由に書いて

（パリアフリーにされて | 書いてつらいところ | パリアフリーにした方が好 | その場合 | 自由記入）

1					
2					
3					
4					

- [illegible]



宮古島の学校との学びの交流

学校間をオンライン会議ツールで結び、「学び」と「食」の交流等を行う

(1) 宮古島市立平良中学校

- ・職業体験の報告「社会にでたときに必要な力」
- ・宮古島を巡るツアー（グループ）



(2) 沖縄県立宮古特別支援学校

- ・クイズや歌などによる宮古島の紹介
- ・宮古島を巡るツアー（グループ）



授業実施のアンケート 令和6年11月下旬実施

【教師】

1) 今回のような総合的な学習の時間の授業があったら良い
5件の回答

はい

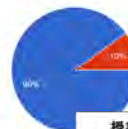


わからない

【生徒】

2) 今回のような総合的な学習の時間をまた体験し
10件の回答

はい



いいえ

■生徒の回答との違い

コース作りの授業がもっとも学びになったと回答
このような授業をまたやってみたいが時間に課題。

■この授業を通して生徒にどのような変容があったか

自分で考え、異なる視点の理解が進んだ

他者のことを考えることができた

子どもたちの興味の幅が広がった。授業を重ねていくうちに
人と進んで関わろうという気持ちが出てきた

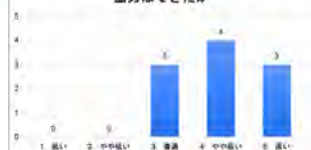
■生徒個人の回答からみてきたもの

生徒A 普段自分が考えないようなことに目を向けること

生徒B 人の手を借りればどこにでも行けるんじゃないか
と言う希望

今回の授業をととして、クラスメイトや先生だけではなく、多くの
他者との関わることで、自分が認められることができたので
はないか。

授業の際、他者（班内の友人等）との
協力はできたか



生徒の学びをサポートする食育の実践

鈴木亜夕帆(千葉県立保健医療大学)、福島昌子(福井大学総合教職開発本部)、加藤悟(ZEN 大学)、大井和彦(信州大学)、平沢安正(渋谷区教育委員会)、千葉美奈子(東京学芸大学附属高校)、内村佐保莉(東京都世田谷区立祖師谷中学校)、堀井優(立教女学院中学校・高等学校) 【海・空・子どもプロジェクト EC】

1. はじめに

【プロジェクト・プログラムについて】

「海・空・子どもプロジェクト」は、健康課題・特別な支援が必要な子どもたちに、海について学び、個人の豊かな成長、社会性、コミュニティーと社会化を培うことをねらいとして、総合的な学習の時間に海洋教育協働探究学習を展開している。海洋教育を通して自己の想像の扉を開き生きる力につなげることを目的として、海洋教育協働探究研究学習のカリキュラムを考案。

プロジェクトメンバーは、教員以外にも大学研究者・看護師・作曲家・リゾートホテルコンシェルジュなどの多職種で構成されている。

特別支援学校のためのカリキュラム考案ではなく、特別支援学校→通常学級→多様な子どもたちの人間教育につなげるためのプロジェクト。

【食育について】

食育基本法(2005 年):食育を包括的にまた計画的に推進するために制定

食育は、生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものであり、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること

「食に関する指導の手引」(2007 年)

食育基本法、学校給食法、学校教育法に基づく学習指導要領等を踏まえ、学校における食育を推進する観点から、学校における食育の必要性、食に関する指導の目標、食に関する指導の全体計画、食に関する指導の基本的な考え方や指導方法、食育の評価について示すもの。

学校において、子供が発達段階に応じて食生活に対する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、学校教育活動全体で食に関する指導に当たり、家庭や地域、他校種との連携を深め、学校における食育の一層の推進を図る。

学習指導要領(2008 年)

総則に「学校における食育の推進」が位置付けられている。

栄養教諭

栄養教諭制度は、2005 年(平成 17 年)4 月に開始。食に関する指導と学校給食の管理を行う。

各学校において栄養教諭が中心となって食に関する指導の全体計画を作成し、教諭等による食に関する指導を支援しながら、体系的・継続的に食育を推進していく。学級担任と連携して、集団的な食に関する指導だけでなく、肥満や食物アレルギーを有する子供に対しての個別的な指導、食物アレルギーに対応した安全な給食の提供を行っていく。

文部科学省『食に関する指導の手引(第二次改訂版)』(平成 31 年3月)

【食に関する指導の目標】

- 知識・技能: 食事の重要性や栄養バランス、食文化等についての理解を図り、健康で健全な食生活に関する知識や技能を身に付けるようにする。
- 思考力・判断力・表現力等: 食生活や食の選択について、正しい知識・情報に基づき、自ら管理したり判断したりできる能力を養う。
- 学びに向かう力・人間性等: 主体的に、自他の健康な食生活を実現しようとし、食や食文化、食料の生産等に関わる人々に対して感謝する心を育み、食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を養う。

【食育の視点】

1. 【食事の重要性】 食事の重要性、食事の喜び、楽しさを理解する。
2. 【心身の健康】 心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し、自ら管理していく能力を身に付ける。
3. 【食品を選択する能力】 正しい知識・情報に基づいて、食品の品質及び安全性等について自ら判断できる能力を身に付ける。
4. 【感謝の心】 食べ物を大事にし、食料の生産等に関わる人々へ感謝する心をもつ。
5. 【社会性】 食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を身に付ける。
6. 【食文化】 各地域の産物、食文化や食に関わる歴史等を理解し、尊重する心をもつ。

学校での食育

➡ 生きる力(おとなになるための力)を「食」をツールとして教育すること

- 給食の時間や単発の特別活動の時間の授業だけでなく、学校教育全体の様々な教育の場面で行うことが必要。
- 栄養教諭だけで生きる上での知識を伝えることは難しい。多・他職種がかかわることが必要。

総合的な学習の時間の中で、学習目標をサポートする食育

2. 実践内容

埼玉県の特例支援学校(肢体不自由、中学部) 中学1～3年生 12 名

総合的な学習の時間

学習目標「宮古島のバリアフリーコースを企画する」:

海洋教育を通して社会を学び、海を知り触れる。



総合的な学習の時間 授業計画(2024 年 4 月～12 月)

	活動	活動内容
5 月	社会体験について	社会体験学習の場所を確定し、全体の流れを作る。
5 月	公共交通機関について	レイクタウンまでの道のりの確認他の電車なども確認
5 月	公共交通機関について	交通機関の種類、行きたい場所を考え、どう行けるのか探す。日本のまわりは海と気づかせる。宮古島に行くにはどうしたらいいのか、宮古島ってどんなところ？
6 月	宮古島を知ろうⅠ	宮古島の社会(文化、歴史、思想、生活、習慣など)について【オンライン:宮古島から特別講師】
6 月	宮古島を知ろうⅡ	宮古島のバリアフリーについて①島で働くという事、宿泊施設のバリアフリー②島内のバリアフリー
6 月	宮古島を知ろうⅣ	宮古島の海の安全・保全について【オンライン:宮古島海上保安庁から特別講師】
6 月	宮古島を知ろうⅢ	海の中の危険な生き物、バリアフリーダイビングについて【オンライン:宮古島から特別講師】
7 月	コース作り①	「バリアフリーを目指した宮古島を巡るコースを考える」コース作りの考え方、ワークシートの作り方等。・誰のために、どこをどう改善して、コースを提案するのか。
7 月	宮古島に行く準備をしよう!	空のバリアフリーについて。飛行機の乗り方、バリアフリー【スカイマーク株式会社から特別講師】
9 月	コース発表会 ★	夏休みに各自で考えてきたコースの発表会。宮古島を感じよう。
10 月	船上での海の保全ライブ学習	海上保安庁宮古島本部の協力で生徒の友達(ぬいぐるみ)が乗船しライブで学ぶ。 ※生徒のコースをプロジェクトスタッフが生徒の友達(ぬいぐるみ)を巡る。
10 月	これまでのまとめ	プロジェクトスタッフが巡った報告書を受け取り。まとめと省察。
11 月	宮古島公立中学校との交流★	学習発表交流。おやつ交流。
11 月	文化祭での発表	文化祭での学習成果発表。
12 月	宮古島特別支援学校との交流	学びの交流。おやつ交流。 ※アンケートの実施

★食育に関する実施時期

①宮古島の味を感じよう(2024 年 9 月)

②宮古島市中学校との授業発表交流会(2024 年 11 月)

総合的な学習の時間の中で、学習目標をサポートする食育となるために考えたこと

- 学校の授業として
- ◆食べる時間が授業と切り離された時間にならないようにする。
 - ◆生徒の「世界観を広げる」ツールになるようにする。
 - ◆子どもたちのレベルに合わせた内容を考える。(身体状況と考える力は違う)

- 栄養教諭(専門として)
- 食物アレルギーの有無
 - 食品衛生上の配慮
 - 食生活の状況、食に関する制限の確認
 - 検食の有無と方法
 - 生徒が楽しめる食品を選択する。(安心して挑戦できる食品)

※子どもたちをリスペクトできる何かを発見したい。自分も学ぶ立場で参加する。

① 学習目標の共有及び準備

授業が始まる4月以降数回にわたり、「海・空・子どもプロジェクト」実行委員会において、授業目標、学校の特徴、生徒の様子について共有された。食がかかわる部分だけでなく、学習全体の目標や流れについて知ることで、専門職として食育でのかかわり方について検討しやすくなった。

また、食育を実施しない授業日に実際の授業に参加し、生徒の様子について観察した。授業の生徒の様子を観察し、生徒の学習意欲、教室の様子、教員のかかわり方を知ること、どのような知識をそのように提供すると良いかについて等、生徒の実態にあわせた食育を検討することができた。

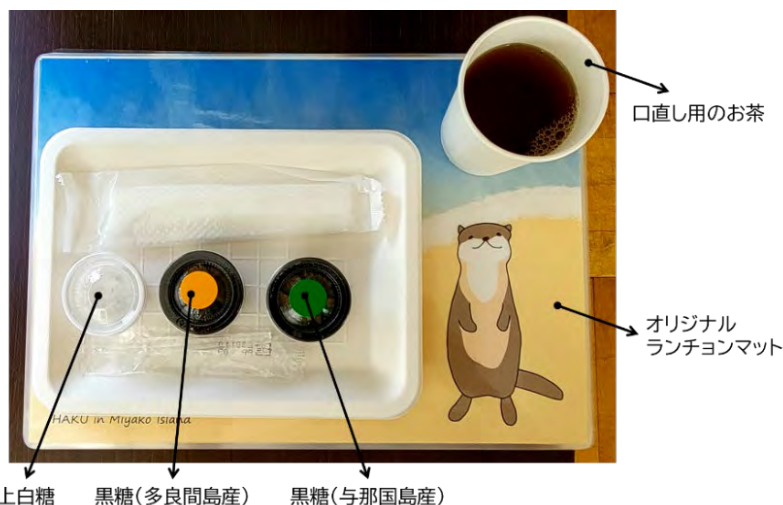
② 宮古島の味を感じよう(2024年9月)

当日の授業内容：「(生徒たち一人一人が考えた)宮古島バリアフリースターの発表会」

発表会后、生徒たちの多くが実際に体験したことのない宮古島を感じるためのプログラムの一部として、食の面から「宮古島(周辺)の味を感じよう」という黒糖2種と上白糖の比較の試食を実施した。

単に、めずらしいものまたは今まで知らなかった味を体験するのではなく、「宮古島を感じて」「味わう」ための方法として、なぜ黒糖なのかに関してスライド数枚の画像で説明した後、目と鼻と舌で味わう方法、味の感じ方の表現方法について伝えた。

生徒からは、食材について「(上白糖の色が)きれい」という発言がみられたり、どの砂糖(上白糖、黒糖2種)が好きかという問いかけに対して各自の好みを生徒それぞれが挙手して表現することができた。食べた感想を伝えるときの説明で、「まずい」ではなく「自分には合わない(苦手)」と表現することについて伝えたことについては、教員からも新しい視点と関心をもってもらった。



1. 口の中をお茶でリセットする
2. 口の中に入れて、舌全体に広げて味わう
3. 飲み込んだあとに広がる味や香りも感じる
4. 別の食品にうつるときはお茶でリセットする

★歯や舌や手ですりつぶして、色や手ざわりも感じよう



③ 宮古島市中学校との授業発表交流会(2024 年 11 月)

当日の授業内容:宮古島市内中学校の生徒とオンラインでつながり「学習発表交流会」

交流のひとつとして「おやつ交換」を実施。埼玉県と宮古島のおやつを各校2種 計4種について、生徒同士で自分たちが送ったおやつの紹介し、その後、オンラインでつながりながらおやつの試食の時間を共有した。

おやつの交流において、事前に各学校の担当教員及びプロジェクトメンバーと、おやつの時間における食育の視点を共有することで、授業にかかわる教員全体で、「食育」としての意義のあるおやつを楽しむ時間になるように準備を行うことができた。

空間をこえてつながって、同じものを食べて共有する体験だけでなく、おやつをツールとして交流のために「送りあったおかしを味わう」ための方法として、どんな視点でお菓子を食べて、それを言葉で表現するかについて伝えた。

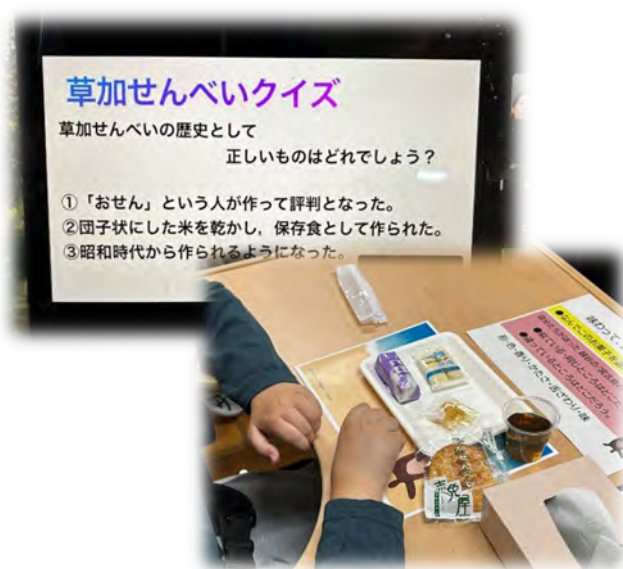
生徒からは、似ているところ/違うところについての具体的な感想はあまり出てこなかったが、(交流先の中学校では)その日の給食の時間に「食レポ」をする生徒がたくさんいた。



味わって、言葉で表現しよう
●なんでこのお菓子を選んでくれたんだろう。
自分たちが送った 越谷の/宮古島のお菓子と比べて
●似ている・同じところはどこだろう。
●違うところはどこだろう。
背景(思い)・形・色・香り・かたさ・舌ざわり・味



宮古島から:雪塩ちんすこう、久松五勇士
埼玉から:草加せんべい、越谷ふわり



④ 実施後アンケート

2024 年 11 月 Google フォームを利用し実施

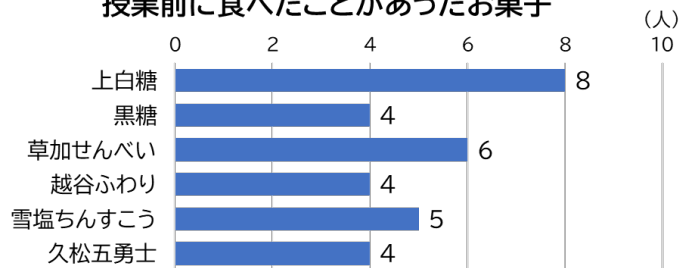
質問項目： 授業の前に食べたことのあったおやつ（食品）

授業の感想

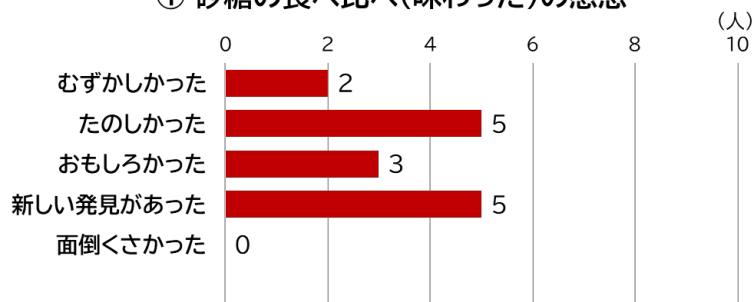
授業を受ける前と受けた後の自分を比べると変わったこと

「味わう」授業でこんなことがしてみたいアイディア

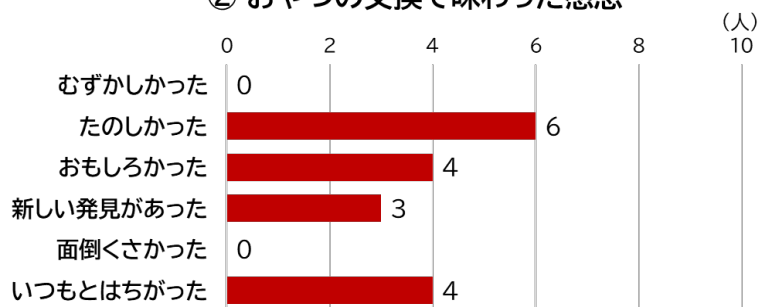
授業前に食べたことがあったお菓子



① 砂糖の食べ比べ(味わった)の感想



② おやつの交換で味わった感想



授業で食べた食品について食経験のある食材も多かった。

① 「味わう」ことはむずかしいと感じても「たのしかった」「新しい発見があった」が 5 名

② 「たのしかった」が 6 名、「いつものお菓子を食べる時間とは違った」4 名

➡初体験のお菓子ではないが、「味わう」視点で食品に向き合ってくれたことが考えられた。

3. 実践を通して学んだこと、考えたこと、次への課題

- 「食部分のゲスト」として参加するのではなく、授業にかかわるメンバーとして、教員が授業全体を作る課程にも加わり、生徒たちの変化の様子を感じることで、学習目標に合わせた食育を検討することができた。
- 食育のみを行う授業回があったわけではなく、各授業での説明時間は5～10分程度で食からのアプローチを行ったが、「味わう」をテーマにすることで、食品への向き合いかた、楽しみかたの視点で授業を実施することができた。
- 宮古島の食べ物の栄養、作り方の特徴を説明するという「予想できる」授業展開ではなく、「探求」の助けになるような、生徒の学習目標や実態に合わせた内容で授業を考えることができた。
- 授業に参加することで、自分自身が、生徒の発言や授業の様子から、自分の世界を広げることができた。

大学での授業へ活用

「教職実践演習(栄養教諭教職課程科目4年生)」

「学校栄養教育論(教職課程3年生)」

「食育実践論(栄養士専門科目2年生)」

「食育論(歯科衛生士課程選択科目1年生)」

学校教育の中での食育＝生きる力(おとなになるための力)を「食」をツールとして教育すること

食べることは「日常」で、薬のように摂取したらすぐに効果が出るというものではない。自分の伝えたことがすぐに見えるときと、自分がいなくなってから日常生活の何かのタイミングで効果を表すことがあると考えられる。

種がどこで芽を出すかわからないが、種を植えること、いろいろな環境で育つ種を植えていくことが必要かもしれない。そのためには、自分自身がバリエーション豊かな人になっておきたい。

学校教育の中における子どもたちへのアプローチについて学びながら、「探求」ツールとして食に関する知識(視点)を伝えるバリエーションを増やしていきたい。

2024

Deep Active Teacher Learning



まえがき

埼玉県のに位置する越谷市。海に触れ親しむには少し距離があり、海を知る機会が少ない越谷特別支援学校の中等部 12 名の生徒と先生は、遠く離れた沖縄県の離島、宮古島の方々を巻き込み、総合的な学習の時間に「海の協働探究プロジェクト」を行いました。

そこでは内陸の埼玉と宮古島の海をつなげて世界で自分だけの「宮古島をめぐるバリアフリーコース」を考え、海の安全、海洋ごみ、文化と歴史、生活と暮らし、豊かな自然を学び、さまざまな大人とかわりながら、考えを深め活動してきました。

オリジナルの宮古島コースづくりでは、「誰のためのコースか」「なぜその場所に行きたいのか」「なぜそのテーマなのか」、海と自分自身、そしてバリアフリーを必要とする人たちについて丁寧に考えました。行きたい場所の候補を 3～4 つ挙げ、友達や家族、幼児や高齢者、障がいをもった人たちが一緒にめぐるならどんな場所にどの順番でまわったらいいのか地図やインターネットを見ながら一生懸命に考えました。

越谷特別支援学校の生徒が考えた探究思考の中を巡る「宮古島バリアフリーコース」を全国の先生が協働で回りました。そして、自分に問いながら、越谷特別支援学校の生徒に問いかけ、問い直し、報告レポートをグループのメンバーで作成しました。

子どもと大人が協働で考えた「宮古島をめぐるバリアフリーコース」を是非一度まわっていただき、埼玉とコラボされた宮古島（海）を感じていただけますと幸いです。

海・空・子どもプロジェクト実行委員会 代表
福井大学総合教職開発本部/連合教職大学院東京サテライト
福島 昌子

「宮古島を巡るコース」 レポート

2024 生徒がたちがつくった「バリアフリーを目指した宮古島を巡る探究コース」

	コース名	1	2	3	4	5
1-1	小9グループのみんな	宮古島市総合博物館	健康ふれあいランド公園アウトドアマリンレジャー	うえのドイツ村	来間島	
1-2	だれもが楽しめる場所	宮古島海中公園	HARY'S Shrimp Track	パイナガマビーチ	ホテルブリーズベイマリーナ	
2-1	高齢者の方や障害者の方関係なくみんなが楽しめるコース	宮古島市総合博物館	レストランネージュ	大浜の特攻艇秘匿壕群	パイナガマビーチ	
2-2	海と博物館	砂山ビーチ	宮古島市総合博物館	宮古島東急ホテルアンドリゾート	宮古島市熱帯植物園	
2-3	楽しく学びにもつながるコース	宮古島市熱帯植物園	宮古島市総合博物館	宮古島海宝館	宮古島海中公園	
2-4	物作りを通して、伝統や文化を知る	宮古島体験工芸村	宮古島総合博物館	島Café とうんからや	宮古島海宝館	
3-1	海と観光地めぐり	ホテルローカス	パイナガマビーチ	新城海岸	雪塩ミュージアム	
3-2	家族で楽しむバリアフリーツアー	宮古島市熱帯植物園	ジョイフル宮古店	うえのドイツ村	宮古空港ターミナルビル	
3-3	中学おつかれ様旅行	宮古空港ターミナルビル	宮古島市熱帯植物園	ジョイフル宮古店	パイナガマビーチ	
3-4	ゆったりコース	宮古島海宝館	宮古島海中公園	宮古島東急リゾート		
3-5	宮古島の海を見る	伊良部島大橋	佐和田の浜	ジョイフル宮古店	シギラビーチ	
3-6	はじめて宮古島に行ったときに楽しめるように計画を立てよう	海中公園	総合博物館	サニツ浜ふれあい広場	前浜ビーチ	
1班	紹介します宮古島コース	うえのドイツ村	丸吉食堂	パイナガマビーチ	HOTEL LOCUS	
2班	自然を感じられるコース	保良泉ビーチ	島の駅みやこ	Y'sガーデン 狩俣キャンプ場		
3班	SNS(X)で知り合った初対面の人との宮古島旅行	海中公園	パイナガマビーチ	東急リゾート&ホテル	イムギアーマリンガーデン	
4班	海へ夢をもつあなたへオースメツアー	宮古島海宝館	島café とうんからや	シギラビーチハウス	オースリーシュノーケル宮古島	

バリアフリーを考えた 宮古島をめぐるコース

3 - 6

生徒の探究思考をたどりながら、実際にめぐるからこそ見える・気づくことを、さらなる探究へと誘う“問い”として生徒に返し、生徒と共に宮古島バリアフリーコースを創りあげます。生徒の探究学習をより主体的な学びとするためには、どのような“問い返し”や“思考の助け”をしますか？

僕・私の考えたコースのタイトル

初めて宮古島に行ったときに楽しめるように計画を立てよう

見どころや魅力

きれいな景色や自然、宮古島の歴史などが一気に楽しめるコース！

誰のため？

パパと兄と私

なぜ？

コロナで旅行ができなかったから

テーマに対する思いや願い

おじいちゃんとは一回沖縄に行ったことがあるがパパとは行ったことがないので、行く機会があったらこの計画を実行したい！

◎バリアフリー化されているところ / ▲使いづらいところ / ♯バリアフリー化した方が良いところ

① 宮古島海中公園：宮古島に来たのなら、海の魚を見たくなるから ☆入場料（障害者手帳があると割引）

◎階段に車いす用のゴンドラがある
施設内も十分に広いスペース

■思いやり駐車場というものがあり、すぐそばまで車が行けるし、止められる。



おもいやり駐車場

▲トイレが少ない
→車いすが入るようにしてほしい

■施設の空間が狭いかも。もう少し広いとスムーズに出入りができる。

■ゴンドラが故障中。修理の予定がないそうです。



♯車いすが入れるトイレの整備
手すりの設置
→もし倒れそうになっても自分で支えられる

■販売物、体験のコーナー、生き物の展示があって、魅力的だったのですが、車いすが通るには、左右気をつけなければいけないので、広い空間をもてばいいのと思いました。

■修理ができないのであれば、カメラを設置して、施設の入口にいれも見られるようにすると一緒に水中にいった気持ちになれるかも。



② 宮古島総合博物館：宮古島の歴史を知って、その知識を生かしたいから

☆入場料

◎中は十分なスペースがある
1階しかなさそう(段差なし)

■車いすはスムーズ。歴史・文化と自然のコーナーの2カ所で、回りやすいスペースでした。

タッチパネルがあり、車いすからでも操作ができるような展示が多くありました。



▲

■企画展の場所は、少し長い下り坂になった場所にあり、一人では移動が難しいかもしれません。



♯

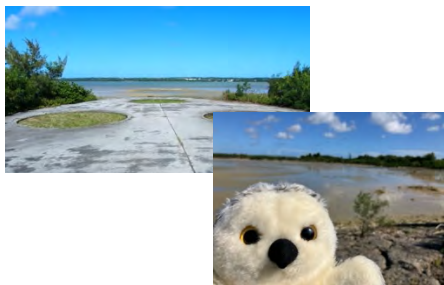
■外国の人が来た時に英語以外にも多く言語の案内表示があると、多くの人が見に来てくれるかもしれないですね。



③ サニツ浜ふれあい広場：大きな馬のオブジェや体力のつきそうな道、色々な大会もあって行ってみたい

◎人があまり来ないから空いていて
歩きやすそう

■歩道が整備されていて、浜のすぐ
そばまで行くことができました。



▲

■外灯がないため、明るい時間にく
ることをおすすめします。(木かげが
少ないため、午前か夕方おすすめ)

■草木が歩道に落ちていて、少し進
みにくいと感じました。



■多目的トイレはありませんでした。

『点字ブロックの設置

→目の見えない人が困らないように

■多目的トイレの設置。

■定期的に歩道の整備(清掃や樹木の
整備など)をすることで、さらに美
しい景色を味わうことができると
思いました。

④ 前浜ビーチ：めちゃくちゃキレイな海で知られているので、いつかは行ってみたい ☆シャワー100円

◎

■砂浜まで、車いすでも入れるが、あ
まり海までは近づくことができな
い。

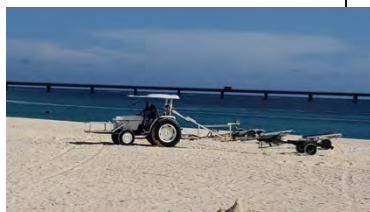
■砂地が白いので、訪れる時間帯は
考慮が必要です。(どうしてかな。)



▲シャワーにも手すりがほしい
更衣室に車いすが入れるドアを設置

■シャワー、トイレの入り口には段差
がありました。また、シャワー室は狭
かったです。

■多目的トイレはありませんでした。



『2つとも同じ海の近くにあったら
いい感じ

近くにあったほうがあまり歩かな
くて済むからラクです

■距離的には、車の移動が必須でし
た。乗り降りは必要になりますが、
5～10分ほどなので、アクセス
は便利。

■ビーチには、水上バイクを運ぶト
ラクターがありました。これを活
用して、誰でも海を間近で感じる
ことができないかなと考えていま
した。

⑤ 場所(宮古島熱帯植物園 体験工房) 選んだ理由：自然・歴史きれいな景色を味わう中で
思い出作りもできるから

◎バリアフリー化されているところ

■段差が少なく、園内が回りやす
くなっていました。植物園内には、5
～6カ所の工房があり、各工房ま
での歩道も整備されていました。
(工房の入口は少し坂があるが、
押しもらえれば入ることができ
ると思います。)



■多目的トイレもありました。

▲使いづらいところ

■入口から工房までは整備されてい
るが、各工房の間は芝生などにな
っていて、進みにくいかもしれな
いです。

■工房によっては、工房内が狭いた
め、中の移動が大変だと思いま
した。

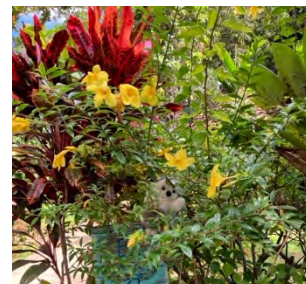
■多目的トイレの電気がつきませ
んでした。



『バリアフリー化した方が良いところ

■多目的トイレに電気をつける。

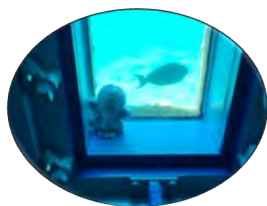
■工房内を広くし、誰でも移動がし
やすくなるようにしてほしい



* 生徒の探究思考を実際になぞったからこそ気づいたことや感じたこと
→子どもたちに向けた「問いかけ」や「伝えたい」「知らせたい」ことなど

① 宮古島海中公園

- ・外から（上から）青い海。海の中にはとてもたくさんのお魚が見られます。
- ・少し高台にあるため、周りの景色（海はもちろん伊良部島や伊良部島大橋も目視でバッチリ！）楽しめます。
- ・宮古島近海に住んでいる魚は、どんな種類があるか知っていますか？どんな魚が好きですか？とても鮮やかな魚たちでした。
- ・海中の展望室には、案内のお兄さんがいました。そのお兄さんが、「私たちが魚に見られているんです。」とお話ししていました。彼らの住んでいるところにお邪魔しているんですね。ちなみに、海中公園ができた頃は魚をみることはできなかったそうです。なぜなのか気になりました。



② 宮古島総合博物館

- ・歴史を知りたいという姿は、さすが中学生です。
- ・車いすでの移動、スペースが広くてとてもスムーズでした。大きく3つのブースに分かれていて、順路をたどり、ゆっくり進んでいくと、宮古島の歴史、民族、工芸品などを知ることができます。
- ・博物館は仲宗根豊見親のお墓をモチーフにして建てられたそうです。実は入口、門が石垣造りで、写真のような形をしています。なぜ、こんな形なのかな想像してみてください。調べてみてね。（綾道・平良北コースを読んでみよう。）
- ・宮古島には、御嶽（うたき）と呼ばれる神聖な場所があるそうです。島の中には何カ所あるのでしょうか。また、なぜ宮古島の人たちは神様を大切にしているのでしょうか。



③ サニツ浜ふれあい広場

- ・到着してすぐに目に入る大きな馬のモニュメント。広々とした広場は、宮古タイムをじっくりゆんびり感じられる空間だと思います。歩道は移動しやすいよう舗装されており、浜のすぐそばまで行けます。干潟独特の海の匂いや海風は、味わってもらえると嬉しいなあと思います。
- ・奥の浜のそばまで行くと、マングローブを見ることができます。マングローブって知っていますか？また、どんなところで育つか？調べてみると面白いかもしれません。
- ・訪れた時刻は、干潮でした。海水がほぼなくて、カニの穴がいっぱいあいていて、横歩きをしていました。ほんのそばで海が眺められます。海の色、空の色を楽しんでください。
- ・マングローブの木は、タコの足のような形の根？が見えていました。なぜ、あのような形なのでしょう。



④ 前浜ビーチ

- ・とにかく圧巻の海の美しさ、砂浜の白さ！サニツ浜ふれあい広場から距離は短いです、車での移動は必須です。乗り降りは少し面倒かもしれませんが、5～10分ほどで着きます。目に焼き付けてほしい景色だと思います。
- ・ビーチを歩いていたら爆音で飛行機が飛んでいました。空も海も楽しめますよ。
- ・「宮古ブルーの海」「青い空」「白い砂浜」日常とは違う場所にいることを感じられるところでした。他の3カ所よりも日差しがとても強く感じられました。宮古島の人々が海の中に入るのには朝か夕方が多いそうです。砂浜ってなぜ日差しが強く感じられるのでしょうか。
- ・前浜ビーチは「〇〇^{いち}の美しさ」と言われています。〇〇には何が入るかな？
- ・白い砂浜 車でそばまで来られます。車いすでの進み具合はどうなのでしょう。何気に気づかず生活をしている私たちにぜひ教えてください。



* 本日のランチ：どこで何を食べたか、このコースとの関連

大和食堂で宮古そばを食べました。

宮古島を初めて訪れるなら絶対に食べてほしい宮古そば！

豚+かつお出汁のスープはあっさりしているけどクセになる美味しさだと思います。また、麺ののどごしもとってもいいです。

宮古そば、実は上にのせてある具（豚肉+かまぼこ）を隠しておくのが昔からの盛り付けです。一説では、税収が厳しいことでぜいたくに行っていることを内緒にするためだとか…。他の理由もあるみたいです。調べてみると面白いかもしれないですね。

沖縄本島には、沖縄そばというものがあります。宮古そばとは、麺のちぢれがちがうそうです。

他の違いも調べてみよう。



* このコースをめぐったのは私たち



古謝先生 山田先生 加藤先生

* このコースを考えた 3-6 さんへ（メッセージ）

■初めて宮古島に行ったときに楽しめるようにというタイトルに、とてもぴったりのコースだったと思います。

景色・自然・歴史一気に楽しめましたよ。


パパと一緒にここで味わった気持ち、目にしたものの聞こえたこと匂い、感覚、ぜひ体験してもらえとうれしなと思います。また、私たちで5つ目の場所を選んでみました。景色・自然・歴史を一気に楽しむプラスに体験しながら思い出づくりもしてみるといいかな？との理由です。5～6カ所の工房があるので、好きなものをチョイスしてみてくださいね。（古謝先生）

■私は、今年2回目の宮古でした。自然ばかりが目に行きがち。博物館というのは、本当に知らないことばかりで、こんな歴史があるのか？と学びがいっぱいでした。

今回いくつかいった私たちのグループから問題を出してみました。ぜひ、問いに答えてください。私たちの当たりまえと気づかないことことをたくさん気づかせていただきました。

みんなが同じ空間で同じ学びができるように世の中をみていきたいと思います。（山田先生）

■コースのタイトルどおり宮古島の自然・歴史を楽しむことができました。きっと家族で来たときもみんなに満足してもらうことができるコースになっていると思います。移動中も、一面にひろがるさとうきび畑や野生（？）のパパイヤやバナナを見ながら、宮古島を感じることができました。また、建物も特徴的で「サシバ」という鳥をイメージして作られた宮古空港やコンクリートで建てられた関東でみることができない平屋の民家などがありました。楽しむだけではなく、学ぶことも多いコースで心も頭も楽しむことができました。ありがとうございました。（加藤先生）



空・海・島への旅

～越谷で宮古島に学ぶ～

埼玉県立越谷特別支援学校



海・空・子どもプロジェクト実行委員会

Supported  